

■ right と privilege ■

2012 年のアメリカ、マサチューセッツ州。13 歳のグレゴリー君に届いた待望のクリスマスプレゼントには母親からの手紙が添えられていた。「今日から iPhone を所有できます。責任感のある賢明なあなたに相応しいプレゼントです」。子供の成長を願う言葉と共に、「何百万回ものメッセージ交換をするのが楽しみです」と綴られていた。

でも、受け取るためのルールや規則もしっかりと付けられていた。全部で 18 条。「これは私のものです。私が支払いました。あなたに貸しているものです」「このテクノロジーを使って嘘をついたり、人を馬鹿にしたりしないこと。人のためになることを第一に考えること」「使う時間を守ること」「依存症になってはいけません」。そして、守ることができなかった場合、iPhone を所有する権利もなくなると記されていた。

権利という言葉がある。英語で思い浮かぶのは right と privilege。何が違うのか？ 生物学者の福岡伸一氏が新聞に書いていた。受験英語では、前者＝権利、後者＝特権。似たようなものかと思っていたら、明確な違いがあるという。right は法律的で全ての人に認められる権利だが、privilege は個々の能力や努力によって与えられるものだという。

本校 ALT のニコラス先生とデボン先生に聞いてみた。例えば、「義務教育を受ける権利」は right だが、「高校や大学などで教育を受ける権利」は privilege であるとのことだった。ついでに、「スマホを使う権利はどちらか」と質問をしてみた。返ってきた答は privilege。つまり、人として正しい使い方ができること、生徒としてすべき学業（宿題や予習も含めて）がきちんとできること、などを満たしてはじめてスマホを使用する権利は得られる。

本校では、校舎内でのスマホ等の使用を禁じている。生徒が学校生活と私生活をきっちりと区別し、スマホ等に振り回されないためだ。他方で、学校以外はどうか。いったん学校を出れば、生徒自身に委ねられる時間は多い。だから、セルフコントロールする力が求められよう。スマホを使う権利は privilege であることを自覚し、まずは高校生としての本分を全うするようにしてもらいたい。

携帯情報端末は本当に便利だ。既に皆が当たり前に使こなす時代だが、利便性の後ろには必ず危うい影が忍び寄る。危険性を排し、この便利な相棒とどう付き合うべきか、使う側の理念が問われている。